～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日　令和６年３月22日＜第３号＞
発行元　東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電　話　０３－５８０２－０３１８
ホームページ　https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/10jidai/yosei/index.html

●第５回教科等指導力養成講座

令和６年２月 11 日（日）東京都教職員研修センターにおいて、第５回教科等指導力養成講座を実施しました。大久保主任指導主事からは、特別教育実習が充実していく中で、「思ったように授業ができずに落ち込むこともある。課題を一つ一つ解決して改善してほしい。分からないことがあれば、指定校の先生方や教授に相談してほしい。」との言葉がありました。

「特別活動」

【小学校コースの講座】

○　「特別活動」

児童が主体的に学級会を運営していくための､教師の支援について学びました。塾生は児童役と教師役になって模擬学級会を行うことで、議題から話がそれたときや､発言が偏ったときの場面に応じた指導の在り方に気付くことができました。

【特別支援学校コースの講座】

○　「個別指導計画」

児童・生徒の障害に応じたきめ細かな指導・支援のための計画について、塾生は実際の個別指導計画を参照しながら講座を受講しました。リフレーミングの演習等を通し、長期目標や短期目標の具体的な記載方法について学びました。

「個別指導計画」

【小学校コース・特別支援学校コース共通の講座】

○　「外部との連携・折衝力」

東京都内の学校に勤務するスクールカウンセラーから、主に保護者との連携や折衝を行う際のコミュニケーションスキルについて学びました。自分も相手も大切にするアサーションの演習を通して、自分の意見の伝え方について学びました。

「外部との連携・折衝力」

○　「教師の魅力と責任１」

小野統括指導主事から魅力ある教師になるために大切なことや、関係する法令や教員の職務、服務について学びました。教師が責任ある仕事だということについて、塾生は改めて実感していました。

「教師の魅力と責任１」

○　「形成期の振り返り」

一人一人の塾生がプレゼン資料を作成し、形成期の振り返り（自己評価）を行いました。指定校での取組や、悩みなどについて班員以外の塾生が混合で情報交換を行うことを通して、自分の課題が明らかになり、形成期以降の目標を確認しました。

「形成期の振り返り」

◆塾生の感想から

○　模擬学級会を通して、自主的な活動の範囲を超えたときに支援することや皆の意見が尊重される学級にすることの大切さを学んだ。

○　個別指導計画について環境が変わってもできるようにするということを保護者に伝え、理解や協力を得ることの大切さを実感した。

○　自分と相手の思いを大切にするアサーションを意識することで、教職員とのコミュニケーションを円滑に進めることができると学んだ。

○　「なぜ教員になるのか」､「どのような教員になりたいのか」について改めて考えることができた。

○　振り返りを行い、自分の課題や悩みが自分だけでないことを知り、安心することができた。また、自分の課題を改めて振り返ることができ、これからの成長に向けてできることは何かを考えることができた。

●第６回教科等指導力養成講座

令和６年３月９日（土）東京都教職員研修センターにおいて、第６回教科等指導力養成講座を実施しました。講座前にコミュニケーションのウォーミングアップとして「ペーシング」を意識した短時間のセッションを行いました。コミュニケーションのスキルの向上に向けた取組を、各講座を通して学んでいます。

「外国語活動及び外国語科の授業づくり」

【小学校コースの講座】

○　「外国語活動及び外国語科の授業づくり」

文部科学省初等中等教育局視学官　直山木綿子様から、外国語科等の授業づくりについて学びました。言語活動の充実を図るため、児童の発言を価値付けたり、思いや考えを大切にしたりする具体的な方法について学ぶことができました。

「乳児期及び就学前の支援」

【特別支援学校コースの講座】

○　「乳児期及び就学前の支援」

早期から特別支援教育への理解を促すなど、乳児期及び就学前の支援について学びました。東京都の特別支援教育を組織的に行う上で、特に保護者との合意形成の大切さについて理解を深めました。

「教材づくり」

○　「教材づくり」

児童・生徒一人一人の実態に合わせた教材づくりを行うため、プレゼンテーションソフトの操作方法について具体的に学びました。指定校にある情報機器をイメージし、実際の活用場面を想定した豊かな発想を膨らませることができました。

【体験活動を通した授業づくり】

小石川後楽園での体験を通して、小学校コースは理科、特別支援学校コースは生活単元学習の授業づくりについて考えました。

【自然体験活動を通した授業づくり】

○　「理科」

第３学年理科「身の回りの生物」の単元を想定し、塾生自身が生物の共通点や差異点を見付ける活動を行いました。共通点に着目して観察を行うことで、児童が問題を見いだし主体的に学習を行うためには目的意識を育むことが大切であることに気が付きました。

「理科」

○　「生活単元学習」

施設利用に関する教科等を合わせた指導について、実地踏査をイメージして体験を行いました。肢体不自由のある児童や視覚障害のある児童が行う活動を想定し、車いすやアイマスクを使用した体験を通して、具体的な配慮事項について理解を深めることができました。

「生活単元学習」

◆塾生の感想から

○　言語活動では反復練習するだけではなく自分の考えや思いを表現することが大切であると学んだ。

○　教師対子供だけではなく、子供達の発言から、子供対子供に広げていくことが大切であるということを学んだ。

○　教師として、自己判断や一面的な認識で重要な決定や指導内容の選択を行わず、保護者や対象児童、まわりの教職員、専門家などとの話合いをじっくり行い、どの場面でも合意形成を大切にするようにしたい。

○　就学前の年少の頃から特別支援学校のリーフレットを渡し相談の門戸を広げることで、特別支援教育への理解を推進することができることを学んだ。

○　理科では導入で「教材との出会い」が重要で、興味関心に合わせて観察ができると思った。自分の調べたいもの、知りたいとものについて、「五感を通して実感できる場」を準備することで興味関心を引き出し、主体的な学びととなるようにしたい。